

3 技術注力領域紹介 ADM 領域

ビジネスアジリティと生産性をともに高める「DX時代の開発スタイル」への変革

Application Development and Management (ADM) の技術が時代に合わせて刻々と変化する中、幅広い技術領域の中で NTT データはどのような視点をもって何に注力していくのか。DX 時代において重要視される“ビジネスアジリティ向上”という価値の創出に向け、アプリケーション開発における変革戦略について紹介する。

ADM 市場の拡大をふまえた市場牽引技術への注力方針

Application Development and Management (ADM) 領域は FY2025 に約 50 兆円の市場規模となるが見込まれ、FY2021 以降の年平均成長率 (CAGR) は 6% ~ 7% 程度と今後も継続的な成長が予測されている。中でも Agile、DevOps、Cloud Native、LCP、iPaaS は特に高い成長率を示しており、昨今の ADM 市場を牽引する技術である。また、これらの技術を組み合わせ、ユーザー価値の最大化や高生産性・高アジリティ状態へのシフトを狙うアプリケーション開発が

現在のトレンドとなっている。

NTT データの海外主要グループ会社および日本のビジネスポートフォリオにおいて、ADM に関する売り上げ比率は他 IT サービスと比較が大きく、今後も引き続きコアビジネスたる領域である。市場の拡大や、開発トレンド・お客様のニーズ変化に対応し続けるべく、NTT データでは ADM 市場を牽引している技術への注力と、これらの技術に関するスキルを有した人材の増強に取り組んでいく。

ADM 技術の“適材適所”がビジネス価値を創出する

DX 時代の到来により、アプリケーション開発においては高生産性を追



株式会社 NTT データ
技術革新統括本部
システム技術本部
アプリケーション開発・開発 & マネジメント技術部長 (執筆当時) 須田 将史氏

求するだけでなく、「ビジネスアジリティを向上させる」という価値創出が求められるようになった。この実現のため、ビジネス戦略策定といった超上流フェーズでの Value Stream Management (VSM) によるビジネスバリューの可視化や、ビジネス特性に適した DX 計画の策定・提案・実現に注力する。これまで以上に早い段階からお客様と対話し、伴走する形でお客様のビジネスを支えていく。

幅広い ADM 技術へケーパビリティを持つだけでなく、お客様にとって“適材適所”な提案と実践ができることを NTT データの強みとし、お客様へビジネス価値をもたらすシステム開発を実現していく。

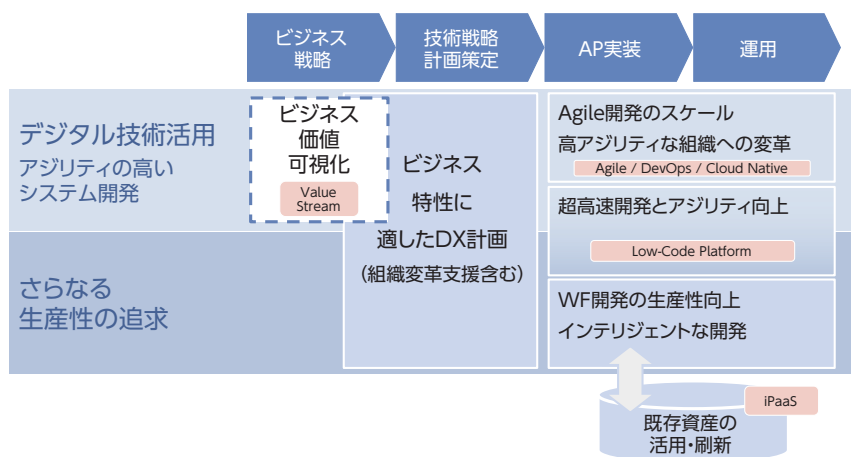


図1 ADM 領域技術アセットの活用フェーズ